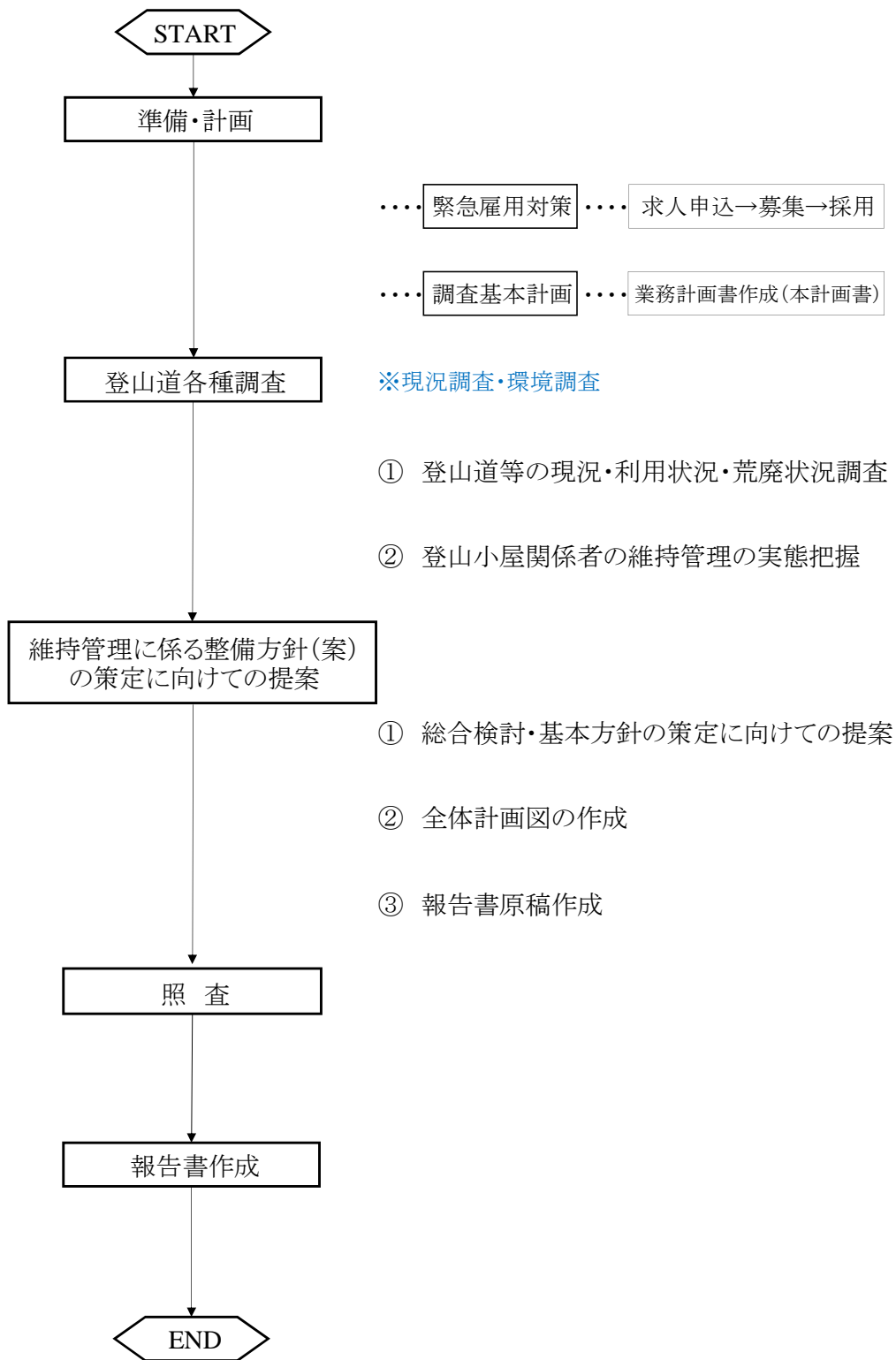


2. 業務内容・実施方針

2.1 業務のフローチャート



2.2 業務内容

(1) 設計数量

| 種 別 | 細 別 | 単 位 | 数 量 | 摘 要 |
|-------------|--------------|-----|-----|-----------|
| 登山道各種 調査 | 登山道現況調査 | 地区 | 0 | 20～50ha |
| | 〃 | 地区 | 4 | 50～100ha |
| | | | | |
| | 登山道山岳環境調査 | 地区 | 0 | 20～50ha |
| | 〃 | 地区 | 4 | 50～100ha |
| | | | | |
| | 総合検討及び基本方針策定 | 地区 | 4 | 4地区まとめて検討 |
| | | | | |
| | 全体計画図の作成 | 地区 | 1 | |
| | | | | |
| | 照査 | 式 | 1 | |
| | | | | |
| | 報告書原稿作成 | 式 | 1 | |
| | | | | |
| 協議 | 事前（初回）協議 | 回 | 1 | |
| | 中間協議 | 回 | 3 | |
| | 最終（納品前）協議 | 回 | 1 | |
| | | | | |
| 旅費 | 旅費・交通費 | 時間 | 614 | ライトバン運転 |
| | 宿泊費 | 人・泊 | 120 | |
| | | | | |

2.3 実施方針

(1) 登山道等の現況・利用状況・荒廃状況調査 <現況調査・環境調査>

- ア 自然公園内の登山道等を対象に調査を実施する。
- イ 対象となる登山道等について、発注者が示す登山道一覧と既存の出版されている地図等を照合・確認する。現地調査前に発注者が示す関係市町村等に事前の聞き取り調査を行い、対象となる関係市町村管内の登山道の概要を把握する。聞き取り調査の内容は、特に関係市町村が管理する登山道の有無、山小屋関係者への登山道等の維持管理に対する補助制度の有無、関係市町村の登山道等の整備水準等の考え方、今後の方針等についてとする。
- ウ 対象となる登山道について、現地調査の際、登山道沿いの山小屋に立ち寄り、山小屋関係者に聞き取り調査を行い、登山道等の現況・利用状況等を把握する。また、登山道等の維持管理への要望事業、登山道等への整備水準等に関する聞き取り調査を行う。
- エ 現地踏査では、登山道等施設の状況(整備水準・破損の有無等)や、荒廃(自然的荒廃・人為的荒廃【踏み込み・し尿等含む】)により自然環境に影響を及ぼしている箇所、通行に支障を及ぼす箇所の状況を写真で撮影し、GPS等を用いて位置が分かるように整備する。
- オ 現地調査とあわせて、山岳環境の保全に関する山小屋トイレ・野生鳥獣被害の状況も適宜に把握する。
- カ GPSを携帯し、経路の計測等を行い、市販ソフト等で利用できる形に整理する。
- キ 登山道現地調査に関しては、登山道調査マニュアルを作成、業務遂行の充実を図る。
- ク 整理した調査結果は、登山道等の維持管理に係る整備方針(案)の基礎資料とする。

(2) 山小屋関係者の維持管理の実態把握 <現況調査・環境調査>

対象とする登山道について、山小屋関係者及び市町村等に聞き取り調査を行い、維持管理の実態を把握する。調査内容は整理し、登山道等の維持管理に係る整備方針(案)の基礎資料とする。

(3) 登山道等の維持管理に係る整備方針(案)の策定 に向けての提案

<総合検討・基本方針の策定への提案、全体計画図の作成、報告書原稿作成>

(1)、(2)の結果をもとに総合検討を行い、登山道等の維持管理に係る整備方針(案)の提案を行うとともに、登山道の位置図(配置図)を作成し、報告書としてとりまとめる。

(4) 照査

照査は原則、治山・林道事業調査等取扱要領(最終改定 平成23年10月18日)に基づくものとする。

2.4 各公園ごとの調査エリア設定

各公園ごとに、登山道調査エリアを登山道利用者の立場で、利用頻度(利用者数等)、利用者レベル(初級、中級、上級)から設定する。

設定したエリアにおいて、地形・地質、植生・自然、登山道レベル、施設整備状況(トイレ、山小屋、道標)、その他の項目に関する意見整理を行う。

(1) 中部山岳 北アルプス北部

・エリアA(爺ヶ岳以北)

ロープウェイ等が設置されており、初心者から上級者まで幅広いレベルの登山者が利用している。冬の積雪量が多く、全体的には登山道整備が良好なエリアといえる。

・エリアB(爺ヶ岳以南-槍ヶ岳)

登山道が急峻で荒廃している場所もあり、コース延長も長いことから、登山者の出入りも少なく、上級者向けのエリアである。

(2) 中部山岳 北アルプス南部

・エリアA(槍ヶ岳・穂高岳)

上高地を基地とした日本でもトップクラスの人気エリアで、主稜線は険しい岩稜が続いた上級者レベルの山域である。

・エリアB(燕岳・蝶ヶ岳)

初心者から中級者レベルの登山者が多く利用し、稜線は中腹に半日コースごとに営業小屋が展開し、利便性の高いエリアである。

・エリアC(乗鞍岳)

頂上付近のバス停から短距離で、3000m峰に登頂できる。近年は、学校登山にも活用される手軽で人気の高いコースである。

(3) 上信越高原

・エリアA(妙高、戸隠、雨飾山、黒姫山)

冬の季節風が卓越した豪雪地帯であり、中級者から上級者レベルのエリアである。

・エリアB(北部-苗場山)

初心者から中級者レベルの登山者ルートであるが、登山道整備が不十分な箇所もあり、比較的用户者の少ないエリアである。

・エリアC(南部-菅平、浅間山)

2000mの峠に登山道があり、手軽な登山を求める、ハイキングに適した初心者コースのエリアである。

(4) 秩父多摩甲斐

・エリアA(秩父多摩)

金峰山周辺の岩壁や絶壁がそそりたつ、ロッククライミングのゲレンデから日帰りが可能な初心者レベルまで多様なコースのエリアである。

(5) 南アルプス

- ・エリアA(北部-甲斐駒ヶ岳、仙丈ヶ岳)

バス等車でアクセス便利なことから、初級者から中級者レベルで3000m級の山への登頂が可能な人気のエリアである。

- ・エリアB(南部-光岳まで)

アクセスが悪く、スケールが大きいため登山者が少なく、中級者から上級者レベルのエリアである。

(6) ハヶ岳中信高原

- ・エリアA(北部-麦草峠、丸山以北)

国道エリアやロープウェイを利用した子供から中高年までの初心者レベルの登山道であり、ハイキングコースも多く、ファミリー登山対象のエリアである。

- ・エリアB(南部)

赤岳を代表とした険しい3000mクラスの山容で、冬の岩稜歩き・氷瀑登り等を含めた上級者レベルである。東京からのアクセスが良く、人気のある山域である。

(7) 妙義荒船佐久高原

- ・エリアA(妙義荒船佐久高原)

アクセスが容易で頂上まで近いことから、子供から中高年まで人気のある初心者レベルのエリアである。

- ・エリアB(南部-光岳まで)

アクセスが悪く、スケールが大きいため登山者が少なく、中級者から上級者レベルのエリアである。

(8) 中央アルプス

- ・エリアA(越百山以北)

千畳敷が主流となっている、初心者から中級の登山者の利用が多いエリアである。

- ・エリアB(越百山以南)

利用する登山者も少なく、施設の未整備区間が多いエリアである。

(9) 御岳

- ・エリアA(御岳)

信仰登山の対象でもあるが、手軽なルートが多く、子供から中高年まで初心者レベルのエリアである。